

巻 頭 言

畜産経営の在り方

蔵 知 毅

今や畜産は陽の当たる産業として大きく浮かび上がって来ているが、特に農林漁業基本問題調査会が発表した「農業の基本問題と基本大作」に於て、生産政策の方向として、需要の見通し、貿易自由化等の問題をも考慮して、生産方向を示しているが、その中で将来の畜産物の生産の見通しとしては、10年後に於て需要の増を充足することを目途として、現在の約3倍近くを増産することにしている。特に伸びの著しいのは牛乳で、食肉、鶏卵がこれに次ぐであろうと見通しているのである。

更にこれ等の生産増強の技術対策としては、畜産については、家畜と作物、特に飼料作物との結びつきを重視し、畜産経営の全般に亘って生産性の向上を図り、それによって畜産物の生産費を引き下げるような技術を重点的に取り上げるべきで、そのために将来必要になって来る問題として

- ① 多頭飼育ないし主畜経営確立のための技術
- ② 乳牛及び肉畜の栄養に関する技術
- ③ 乳牛、肉畜および家禽の飼養、管理に関する技術
- ④ 飼料作物（牧草を含む）の優良品種の育成とその栽培に関する技術

等が重要であると指示しているのである。

又重要農産物の価格についての考え方としては、畜産物のように成長が期待されるべきものについては、収益性を相対的に高める必要が認められるが、価格の引上げよりも、生産費低下に重点を置くべきであるとしている。

飼料については、このような畜産物価格の考え方に即応して、自給飼料、購入飼料にわたって価格の安定、引下げのための価格政策を強化する必

要があるとしているのである。

一面貿易の自由化による海外農産物の影響とこれに対する対策としては、畜産物は卵と飲用乳を除いては、特に乳製品は決定的な影響を受けるであろうから、乳製品等については、輸入の量的制限の措置が必要であるとも云っているのである。

以上の様な点を指摘して、将来の畜産経営の在り方を示しているのであるが、これ等の諸問題については今までに既に多くの有識者からも指摘され、注意もされて来たことであるが、これ等の点が国なり県なりの政策の上に大きく取り上げられて来ることは明らかであって、この際これ等の問題をもう一度よく検討してみる必要があると思うのである。